



公益社団法人 企業メセナ協議会

108-0014 東京都港区芝5-3-2

アイセ芝ビル 8階

phone 03-5439-4520 facsimile 03-5439-4521

www.mecenat.or.jp

2019 - No. 02 2019年2月21日

「SOMPO アート・ファンド」第4回助成決定 全国各地の多彩でユニークな芸術・文化活動を支援

損害保険ジャパン日本興亜株式会社(以下、損保ジャパン日本興亜)はこのたび、「SOMPO アート・ファンド」の第4回の選考を行い、全国のアートプロジェクトや国際的アートフェスティバル等、計16件の芸術・文化活動を採択しました(採択活動一覧を別添)。

当ファンドは、芸術・文化により活気ある未来を創造したいという損保ジャパン日本興亜の思いを実現するため、公益社団法人企業メセナ協議会(東京都港区芝5-3-2、理事長:尾崎元規)の「2021 Arts Fund(正式名称:2021芸術・文化による社会創造ファンド)」(※)の仕組みを活用し、当協議会がコーディネート、協力を行っているものです。未来の文化創造に貢献し、人々のクリエイティビティを高める全国各地の芸術・文化活動を対象に、2016年より計54件への支援が実現しています。

<「SOMPO アート・ファンド」第3回助成活動の様子>

川俣正/仙台インプログレス 2018



写真:嵯峨倫寛

六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2018



木村剛士 畑になる/人

飛生芸術祭



yixtape



SOMPO アート・ファンドとは

損保ジャパン日本興亜が文化・芸術の振興を通じた豊かな社会創造を目指し2016年6月に設置したファンド。創造性にあふれた「未来の社会づくり」という視点を重視し、当協議会の「2021 Arts Fund」(※)を活用し、運営しています。

▶URL <https://culfun.mecenat.or.jp/grant/sompo>

◆支援対象:

- (1) 未来の文化創造に貢献し、人々のクリエイティビティを高めていくような文化・芸術活動
- (2) 地域の魅力を顕在化させ、その独自性を発揮していくような文化・芸術活動
- (3) 文化による国際交流、および多方向性ある文化交流を促すような文化・芸術活動
- (4) その他、文化・芸術による社会課題の解決および社会創造に寄与する活動

「2021 Arts Fund」とは

2020年とその先を見据え、芸術・文化に対する社会的投資や寄付の促進をはかるべく、寄付者の目的をかたちにするファンドとして2014年より当協議会が運営しています。

▶URL <https://culfun.mecenat.or.jp/collect/2021artsfund/>



【関連企画：ネットワーク・ミーティング】

「SOMPO アート・ファンド」助成団体とのネットワークづくり等を目的に、「ネットワーク・ミーティング」を下記の通り開催し、主に第3回助成活動の実施報告会を実施します。当日はアーティストや有識者のゲストを数名予定しています。ご取材をいただけます場合は、下記広報担当までご連絡ください。

- ◆日時：2019年3月5日(火) 14:00～17:00(予定)
- ◆会場：損保ジャパン日本興亜新宿本社ビル(東京都新宿区西新宿1-26-1)
- ◆対象：「SOMPO アート・ファンド」第3回、第4回助成団体

■公益社団法人企業メセナ協議会とは：

芸術・文化振興による社会創造を目的として、企業をはじめ文化に関わる団体が参加、協働する民間の公益法人。創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与すべく、企業メセナの推進を中心に、文化振興に関する調査・研究、認定・顕彰、助成、交流、発信等の事業を行う。

会長：高嶋達佳([株]電通 相談役)、理事長：尾崎元規(花王[株] 前取締役会会長)。

正会員・準会員：159社・団体／個人会員：19名(2019年2月15日現在)。

【本件に関するお問い合わせ先】 公益社団法人企業メセナ協議会 広報：佐藤・福森／助成：佐藤・妹尾・小野
TEL:03-5439-4520 FAX: 03-5439-4521 E-mail: press@mecenat.or.jp
〒108-0014 東京都港区芝 5-3-2 アイセ芝ビル 8階 URL: <https://www.mecenat.or.jp>

企業メセナ協議会「SOMPO アート・ファンド」第4回助成活動 一覧

No	活動名/活動団体名/開催時期/開催場所	活動概要
1	三陸国際芸術祭2019	数多くの郷土芸能が伝承されている三陸地域から国内外へその魅力を発信し、同時にアジアの芸能や現代美術との交流の機会を設けている。大きな被害を受けた東日本大震災から、文化芸術の魅力を活かした創造的な復興を目指し、国内外の芸能団体や現代アーティストによる公演を実施するほか、三陸地域の郷土芸能に関する情報を集約・記録し、国内外に発信するための整備を進める。
	三陸国際芸術推進委員会	
	2019年9月21日～10月27日	
	リアスホール、キャッセン(大船渡)、まちにわ、はっち(八戸) ほか	
2	川俣正/仙台インプログレス2019	アーティスト川俣正氏による仙台市沿岸部(津波被災地)での長期プロジェクト。湾に沿って流れる「貞山運河」にかかる作品「みんなの橋」の制作に取り組みながら、地域の暮らしにつながるさまざまな活動を市民とともに行う。2019年は新たに「木道」を制作するほか、地域住民や郷土史研究グループなどに向け、運河界隈の将来の状況を構想するワークショップを開催し、広く関心を集めながら計画をブラッシュアップする。
	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	
	2019年4月1日～2020年2月29日	
	貞山運河、新浜みんなの家、せんだいメディアテーク	
3	中之条ビエンナーレ2019	一般公募による国内外作家と海外交流招聘作家が町内の廃校や空き店舗などに現代アート作品を展示する。運営は作家と行政、地域住民が共同で行う全国でも珍しい地域芸術祭。観光客誘致や移住促進だけでなく、地域が持っている資源や技術を見直し、アートと地域の知恵が混じり合うことで、地域が新しい生活の捉え方を創造し、生きる基準を見出すことを目的とする。
	中之条ビエンナーレ実行委員会	
	2019年8月24日～9月23日	
	群馬県中之条町内全域	
4	シアターコモンズ'20	演劇の「コモンズ=共有知」を活用し、社会の「コモンズ=共有地」を生み出すプロジェクト。東京ドイツ文化センター、アンステイチュ・フランセ、台湾文化センター、オランダ大使館、NPO法人芸術公社の協力連携により実施される国際文化事業。4回目の開催となる今回は、「あらたな知覚と身体創造力」をテーマに、国内外のアーティストや研究機関とともに開発する7つのプログラムを実施する。人間の知覚を拡張するとされるVR技術やAIへの疑問を単なる鑑賞にとどまらない、体験可能な仕組みをもつプログラムを通して実験を行い、成果を社会へ還元する試みを行う。
	シアターコモンズ実行委員会	
	2020年2月22日～3月8日	
	SHIBAURA HOUSE、東京ドイツ文化センター、台湾文化センター、港区立男女平等参画センター、リーブラホール、慶應義塾大学ノグチルーム	
5	世界の人形劇プラットフォームプロジェクト～「ネヴィル・トランターの世界」(仮)	世界人形劇界のトップスター、ネヴィル・トランター氏が主宰するオランダの人形劇団「スタッフド・パペット・シアター」を招聘し、全国8都市での国内ツアーを実施する。また、ツアー各会場においてワークショップを開催する。言語の壁を越え、大人から子どもまであらゆる方が楽しめる表現芸術＝人形劇の魅力を、国内各地に広く届けることを目的としている。
	有限会社 プーク人形劇場	
	2019年7月20日～8月14日	
	プーク人形劇場、札幌市子どもの劇場やまびこ座 ほか	
6	IAFT19/20	tactileBOSCH(ウェールズ)、TURF(ロンドン)、Belfast(北アイルランド)、Performance KØkkenet(コペンハーゲン)を拠点とする4団体との共同企画。世界的に活躍するキュレーターとの共同キュレーションにより海外アーティストを招聘する。今回はイギリスのバンドWhite Townのアルバムタイトル「Women in Technology」からインスパイアされた「Woman in ?????」をテーマに掲げ、アーティストの滞在制作および展示・パフォーマンスイベント、障がい者向けの制作ワークショップを実施する。
	Interdisciplinary Art Festival Tokyo	
	2019年5月、2020年2月20日～3月8日	
	荒川区・渋谷区・杉並区・小金井市・三鷹市	
7	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020	「国際舞台芸術ミーティング in 横浜(Performing Arts Meeting in Yokohama、略称TPAM)」は、舞台芸術に取り組むプロフェッショナルの交流を促進するための国際的なプラットフォーム。2020では、TPAMディレクション(アジアと世界のコンテンポラリー・パフォーマンス・アーツの最新動向を反映する主催公演プログラム)やTPAMエクスチェンジ(TPAM参加者のネットワーキングを促進する交流プログラム)、TPAMフリンジ(TPAM会期中に横浜や東京周辺で行われる作品を公募し紹介するプログラム)等を予定している。
	特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター	
	2020年2月8日～16日	
	KAAT 神奈川芸術劇場、他	
8	国際工芸アワードとやま(仮称)	将来を担う若き工芸人を対象に、工芸作品の表現・技術に加え、これまでの活動や工芸に対するビジョンを選考の対象とした新たなアワードの実施。その他、国際北陸工芸サミットと関連して、特色ある文化施設等を活用した若手工芸作家の作品展示や北陸の主要産地でのクラフトツーリズム、テーブルウェアフェスティバルへの北陸三県合同参加等を予定している。
	富山県	
	2019年4月1日～2020年3月31日	
	富山県美術館、県内工房等	
9	プレ・「表現未満、」フェス@たけし文化センター連尺町	2000年から「さまざまな人々がともに生きる社会」(ソーシャルインクルージョン)をめざし、障害者の存在そのものをアートによって顕在化させていく活動を実施してきたNPOが、長年蓄積してきた事業を一堂に会する展覧会を2020年のオリンピックイヤーに向けて開催。今回はそのイベントとして、特に発信性の強い音楽・パフォーマンス・映像関係を重点的に実施する。
	NPO法人 クリエイティブサポートレッツ	
	2019年11月1日～12月23日	
	たけし文化センター連尺町、中心市街地	

No	活動名/活動団体名/開催時期/開催場所	活動概要
10	あいちトリエンナーレ2019	「技」によって日本のモノづくり産業をリードし、都市であり地方である「愛知」を舞台に、「情けの時代 Taming Y/Our Passion」をテーマとして、文化芸術団体や芸術大学等と連携した舞台公演や作品展示を行うほか、地域で活動するNPO等と協働して、地域の文化芸術活動の活発化を図る。
	あいちトリエンナーレ実行委員会	
	2019年8月1日～10月14日	
	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館など名古屋市内、豊田市美術館など市内各所	
11	文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり	文化芸術による共生社会の実現を目指し、福祉・教育・医療等の施設や団体において、自発的に社会包摂型アートプログラムを展開できるための基盤づくりを目的とする。文化芸術の持つ力で、各施設における困難な状況が緩和・解決されることを目指すべく、①福祉施設等において文化芸術の取り組みを実施する際の相談窓口の開設、②モデル事業の実施、③コーディネーター人材の育成を軸に運営する。
	東山 アーティスト・プレイズメント・サービス実行委員会	
	2019年4月1日～2020年3月31日	
	HAPSオフィス ほか	
12	六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019（第10回記念展）	現代アートの作品を通じて、アート作品自体の魅力を伝えることはもちろん、六甲山の持つ豊かな自然環境及び、眺望、夜景、歴史、文化等の様々な魅力や、知られざる潜在的な価値等を来場者に感じ、楽しんでもらうことを目指す。2019年は開催10回目の記念展として、過去最大の参加アーティスト数、新しい企画への取組み等、内容を充実させ、祝祭感を加えて実施する。
	六甲山観光 株式会社	
	2019年9月14日～11月24日	
	六甲ガーデンテラス、六甲高山植物園、六甲ケーブル、六甲山ビジターセンター ほか	
13	岡山芸術交流2019	岡山城や後楽園などの歴史的文化遺産や公私立の文化施設など、岡山市に存在する施設のポテンシャルを活かしながら現代アート展を行うことで、新たな魅力を掘り起し、既存の文化の価値を高めていく。フランス、英国、米国、スイスなどの海外アーティストが制作したコンセプチュアルアートの国際展を開催するとともに、公民館等で出前講座や参加者同士で対話を交えたワークショップ等を開催。
	岡山芸術交流実行委員会	
	2019年9月27日～11月24日	
	岡山城を中心とする歴史・文化ゾーン(例:旧内山下小学校跡地、岡山城、後楽園外苑、他)	
14	海と山のアート回廊2020(仮称)	2020年に向けて、尾道市・福山市・三原市を舞台に現代アートの国際的な芸術祭を開催。「つくる。つなぐ。たのしむ。」をキーワードに『21世紀のひろしま文化』を発信するため、県全体で芸術・文化に親しむ機会の創出に取り組んでいる。今回は2020年につなげるべく、尾道市・百島においてシュシ・スライマン、柳幸典、岩間賢、横谷奈歩らアーティストによる滞在型作品制作や各種レクチャー、ワークショップを期間中に実施。将来的にはさまざまな社会課題を抱える地域がアートのもつ力で活力を得て、地域の活性化にもつなげる。
	広島県(現在実行委員会設立中)	
	2019年4月1日～2020年3月20日	
	尾道市	
15	神山アーティスト・イン・レジデンス2019	国内外から招聘した現代アート、デザイン、建築などの分野で活躍する芸術家が滞在しながら作品を制作、展示する。地域住民との交流を通じ、過疎化が進む町に活気を生むことを目指し、アートを活かしたまちづくりを行っている。昨年スタートした、過去に参加したアーティストを再度招聘し滞在制作を行う「Kick off KAIR2018」から発展させたプロジェクトとして、2019年度は年間を通じた活動を目的としたプログラムをスタートさせる。
	神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会	
	2019年8月23日～2019年11月5日	
	神山町内各所	
16	「ベップ・アート・マンス 2019」および「島袋道浩 in BEPPU」	「ベップ・アート・マンス」は、別府で催されるさまざまな文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業。また、「関口 光太郎 in BEPPU」は、芸術祭「混浴温泉世界」の後継企画として、2016年より始動した“個展”形式のアートプロジェクトで「ベップ・アート・マンス」の目玉事業として実施。新聞紙とガムテープによる小さな断片を素材に大きな構造物を制作する作家で、日常にありふれた素材によるその作品は、時として神話のような世界観を纏い独特の魅力を放つ。
	混浴温泉世界実行委員会	
	2019年9月21日～11月4日	
	別府市内(複数会場を想定)	

※開催日や開催場所など変更の可能性があります。